

豊かな自然と文化財の多い楞嚴寺

仏頂山楞嚴寺は、山号どおり県境の仏頂山の麓にあります。笠間市石井から県道一号線で片庭の城里町徳蔵へ通じる道の先をすぐ左折し、坂道を登り、仏頂山に向って右折して降りると、山門が見えます。ここが楞嚴寺です。切妻造りの茅屋ぶきで重量感あふれる室町時代中期の質素な山門です。国指定重要文化財で、市内の山門では最古のものです。

また、この山あいには、県指定の自然公園の中にあつて、特にここは姫春蟬の発生地としては、太平洋側の分布北限で、弘法大師と徳蔵姫の伝説をもつ蟬として愛護してきた経緯から、国の天然記念物に指定されています。この山門から先に笠間氏累代墓地があります。鎌倉時代初代領主時朝は、この寺を菩提寺として以来、笠間十八代綱家の時、天正十八年（一五九〇）豊臣秀吉の小田原参陣にあたり、本家宇都宮氏の命にそむき、この片庭古山の戦で敗れ笠間氏は滅亡しました。この地には多くの五輪塔が埋没していて、昭和九年（一九三四）郷土史研究会の笠間義士会の手によって整地され、昭和五十三年に市指定史跡となりました。

寺は、山すその石段を登った平坦な地にあります。ここには、

奥の院とよばれた観音堂が正面にあり、ここに鎌倉時代笠間朝の寄進仏手観音があります。何度かの火災にも残った建造物で、長い間仮本堂でもあった貴重なお堂です。

国指定重要文化財である千手観音は、同時代の不動明王、毘沙門天と共に収蔵庫に納められ、さらに太子堂に虚空蔵尊、本堂には、市指定の南北朝期の大日如来ほか鎌倉期の薬師如来と釈迦如来、室町期の地藏や達磨大師等、多くの仏像を有する寺でもあります。

なお、市内の時朝寄進仏は、来栖の岩谷寺、石寺の弥勒堂にもあり、毎年四月八日の花まつりには公開されています。その他の拝観には、事前に市教育委員会を通して寺々の承諾が必要です。

四季を通して豊かな自然につつまれ、多くの文化財をもつ寺々を楽しみながら訪ねることをお勧めします。

（市史研究員 能島 清光）



薬師如来 大日如来 釈迦如来
（本堂所蔵）

市長コラム

一枚の写真と賑わい



昭和30年代後半の稻荷神社前

が出るほどの大きな被害を受けました。このままでは、更なる観光客の減少が懸念されます。この危機的状況を前に、何とか対策を講じなければならぬとの関心が高まり、地元を中心として、門前通りの在り方についての再協議がスタートしました。2月の末には3回目の会合を予定しておりますが、地元の方に限らず、門前通りの再整備について幅広くご意見をいただければと思っております。

昭和30年代後半の笠間稲荷神社門前通りの写真は、参拝客が通りをうめつくす賑わいのある風景を写し出しています。時が過ぎた現在は、残念ながら昔の状況とは様変わりをしていきます。

2年前に、当時の賑わいをもう一度〝〟の思いで、門前通りの再整備の話し合いをスタートし、歩行者を優先するための一方通行の提示をしましたが、地元の理解を得られずに話がストップしてしまいました。

今後の「笠間稲荷神社門前通りの在り方」について、話し合いを再スタートしようとした矢先に大震災が発生し、門前通り周辺も廃業する店舗

施してまいります。この事業により笠間市の観光による交流人口の拡大、そして、経済的活力を生み出していくことが必要であります。昭和30年代後半の賑わいをもう一度取り戻し、活気ある街並みとなることを願っています。成功は地元の方々にかかっています。

笠間市長

山口伸樹